

(1) 学力調査について

◆各教科の結果から

	これまでの学力調査等から把握した課題	今回の結果から見える成果と課題
国語	言語事項については定着度に差があり、個々の学習の状況が表れている。古典や漢字の読み書き、文章を読み取り、回答できる内容については正答率が高い傾向がある。一方で、論理的な思考や条件のある記述問題は依然として課題があると考えられる。	文法や漢字といった知識理解については一定の成果がみられたが、言語事項については、引き続き課題となっている。「書くこと」や「理由を説明すること」については授業で意識的に取り入れる必要がある。この力を育てるために、国語はもとより、あらゆる教科で「読む能力」や「書く力」を育む授業を意識していくことで、課題解決に努めていく。
数学	計算分野、図形分野の定着は高く、基礎・基本の学習についても一定の成果が見られる。また、無回答も少なく、意欲も見られる。しかし関数、特に一次関数や作図、筋道を立てて数学的に説明することについては課題が継続している。	計算分野を含む基礎・基本については成果が見られる。しかし、数学的な用語や定義など「数学の意味理解」については課題があり、「解答はしているが、十分に理解していない」部分が見られた。また今回は、図形分野（立体や証明）における多様な考え方をすることについて課題がある。単元の導入で定義の理解を深めることや1つの問題を多様なアプローチで考える授業を取り入れていくようにする。

◆学力向上の現在の取組み

【授業づくり】

大学教授の指導助言を受け、すべての子どもにわかりやすい授業展開に取り組んでいます。

授業のはじめに、「今日の目標」を明らかにし、生徒が学習内容の概要を知った上で授業に入ります。



【少人数・習熟度別指導】

個に応じた指導を心がけ、きめ細かな指導を展開しています。

今後、教科・単元内容によっては、ICT 機器の活用も行い、理解の充実を図っていきたいと考えています。



(2) 学習状況調査について

◆取組みに重点を置いている項目について

No.	項目の内容	これまでの学力調査等から把握した課題
1	自分には良いところがあると思う	自己肯定感・自尊感情があまり高くない傾向にある。全教職員が肯定的な声かけを心掛ける必要がある。
2	学校の規則を守っている	比較的望ましい結果があらわれている。引き続き、生徒会など子どもの取組とも連動させて高めていく。
3	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある	毎年望ましい傾向にある。行事等への積極的に参加する校風を維持していきたい。
4	家の手伝いをしていますか	手伝いを「よくする」生徒が少ない傾向がある。生徒だけでなく、保護者への啓発が課題である。
5	あなたの家の人と、学校での出来事について話をする	概ね全国平均と同じである。家庭で学校のことを話すことの大切さを保護者にも意識付けする必要がある。
6	近所の人に会ったとき、あいさつをしている	毎年8割以上の生徒ができていますが、ここ数年減少傾向にある。挨拶の大切さを考える機会を増やしたい。
7	朝食を毎日食べている	概ね全国平均と同じだが、食べない生徒が依然減少しない。引き続き生徒とともに保護者にも啓発していく。
8	普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか	7時までで起きる生徒も増加傾向だが、7時半以降の起床が多いままである。早寝早起の指導を心掛ける。
9	今住んでいる地域の行事に参加している	平成19年度以降減少傾向にあったが、少しずつ増加してきている。地域を大切にすることを育てたい。
10	家や図書館で、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか	毎年読書離れの傾向が続いている。朝読書や図書便りの充実を図り、読書への関心を促す取組を行う。

今回の結果から見える成果と課題
授業や各取組、クラブ活動など様々な場面で、生徒の努力の過程を評価し、自信を持てるような指導・言葉かけをする。
大部分はよく守っているが、さらにその意識を高めたい。規則がなぜ必要か、守ることにどんな意味があるのかも考えさせたい。
概ね望ましい結果である。引き続き生徒の粘り強い努力を引き出すような指導を心がけ、その努力を支援していく。
よくする生徒がいる一方、あまりしない生徒も多い。家庭での役割について考えさせ、学校通信等で家庭へも啓発をする。
比較的話をしている。今後も、家庭での話題につながる内容の学年通信や学校通信にするなどの工夫をする。
2割弱の生徒ができていない。集会や道徳などで啓発する一方、あいさつ運動など生徒自身の取組も活性化させたい。
1割の生徒があまり食べていない。生徒に朝食の大切さを考えさせるとともに、引き続き保護者へも啓発する必要がある。
全体的にやや遅めの傾向がある。朝食を摂り、ゆとりをもって登校できるよう集会や保健だより等で早寝早起の指導をする。
学校と地域、家庭の連携を強化するとともに、生徒に地域とのつながりの大切さを考えさせる機会をもつ。
あまり読書が習慣化していない。引き続き、朝読書の充実を図るとともに、司書の協力を得ながら図書だよりや図書室環境の充実を図る。

◆意識を高めるための現在の取組み

【市内一斉清掃】

市の行事に合わせて、各クラブが学校及び周辺の清掃を行い、地域行事への参加や地域を大切にする意識の向上を図ります。



【縦割り活動】

長縄大会や体育大会の取組などを縦割りでを行い、異年齢との活動・取組を通じて、子どもたちの自己肯定感や有用感、達成感を育みます。



①これまでの取組みの継続と発展について

- 研究授業月間を6月とし、各教科で「授業の進め方」や「発問の仕方」、「授業規律について」話し合いを進めるとともに、引き続き授業評価週間を6月・11月に設け、生徒対象に授業についてのアンケートを実施する。
また、授業参観時でも保護者に対してアンケートを実施し、外部評価を取り入れる。
- 全家庭に「学習のてびき」を配付し、教科ごとの学び方や家庭での学習の仕方などについて情報提供を行っている。また、内容についても毎年、見直しを行っている。
- 国語・数学の少人数指導については、生徒の状況に応じ、習熟度別指導の割合を増やしていく。
- 大学教授や教育委員会、府教育センターの指導助言を受け、授業のユニバーサルデザイン化を学ぶことを通して、全ての子どもにわかりやすい「授業づくり」に取り組む。



②授業力と子ども理解力のさらなる向上について

- 教科会議で、生徒の学力の実態に即した指導方法の工夫・改善をメインに話し合い、研究授業を通じて、具体的な方策について話し合う。
- パソコンやDVD、大画面TVなど電子機器を活用し、生徒の興味・関心を高めた指導を展開する。
- 子ども支援委員会において、生徒の個々の状況を把握するとともに、「今日の目標」「まとめ」を意識した授業づくりなど、指導方法や個に応じた支援方策をきめ細かく展開する。
- 生徒の考えを書いたり、発表するの機会を増やす授業の展開や「学習方法」を学ばせることにいっそう心がける。



生徒のみなさんへ

- ☆文法や漢字、計算といった基礎的・基本的な問題は、できています。
- ☆「今日の目標」を意識し、集中して授業に参加しよう。
- ☆家庭学習は、まず宿題から。その日のノートを見直すことも復習の1つです。毎日、必ずしていこう。
- ☆本を読むことは、自分の力を高めるうえでも大切です。朝の読書の時間以外でも本を読む時間を持つようにしましょう。

保護者のみなさんへ

- ☆結果だけにとらわれず、その過程や努力する姿を評価してあげてください。
- ☆生活リズムを整えることは、学習内容の定着にもつながります。毎日の朝食や夜更かしをしない生活にご協力をお願いします。
- ☆地域活動に子どもと一緒に参加し、地域とともに子どもたちを育てましょう。
- ☆言葉使いやマナーが子どもたちの規範意識を育てます。ご家庭でのご指導をお願いします。